



<家計について感じていること>

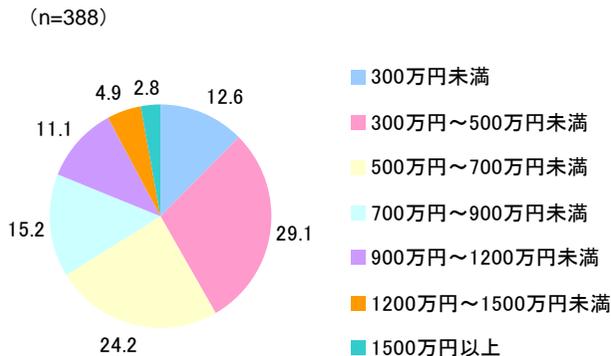
主婦の6割が この1年で家計が苦しくなったと回答

全国の既婚女性391人に「家計」について聞いた。おおよその世帯年収は「300万～500万円未満」「500万円～700万円未満」が半数以上で、この1年で家計が苦しくなったとする人は全体の6割。年代別で見ると若い世代ほど苦しくなった人が多く、30代以下では67%にのぼる。

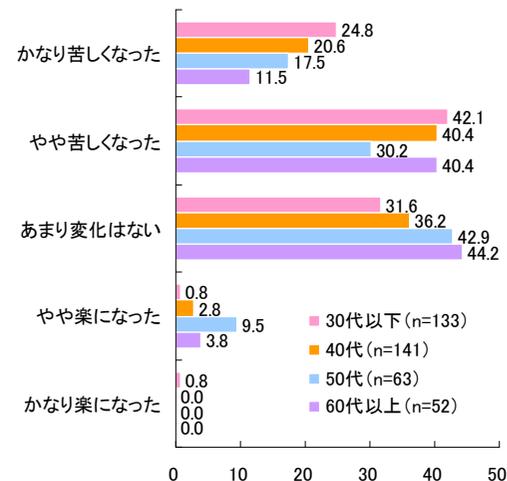
家計が苦しくなった要因は 給与・賞与など収入の減額がダントツ

この1年で家計が苦しくなったと答えた人に、思い当たる要因を複数回答でたずねると、「給与・賞与など収入の減額」がダントツ。30代以下、40代で6割強、50代で8割近くが打撃を受けている。ほか、30代・40代では教育費の負担増も重荷に。年代が上がるごとに医療費や税金・社会保険料負担増も上がってくる。

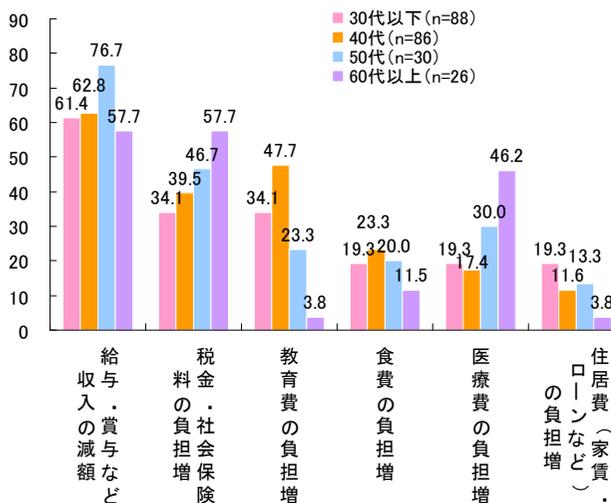
(グラフ①)おおよその世帯年収は？



(グラフ②)この1年で、家計についてどのように感じていますか？



(グラフ③)「かなり苦しくなった」「やや苦しくなった」と答えた方。要因を次のうちから選んでください。(いくつでも)



(数字はすべて%)

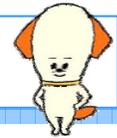
<回答者プロフィール>

- 平均年齢:45歳 ●配偶者:あり 100%
- 子どもの有無:あり 77.5%、なし 22.5%

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430



<家計の中で出費を減らしたい項目>

全年代が家計の中で 水道光熱費の出費を減らしたい

家計の中で出費を減らしたいのは、全年代で水道光熱費がトップ。

2位以下に年代による差異が見られ、30代以下は「外食」「通信費」「食品」「車費用」、40代は「通信費」「食品」「保険」「外食」、50代では「通信費」「保険」「ファッション」「車」、60代以上では「外食」「通信費」「ファッション」「車」のように続く。

<回答者プロフィール>

- 平均年齢:45歳 ●配偶者:あり 100%
- 子どもの有無:あり 77.5%、なし 22.5%

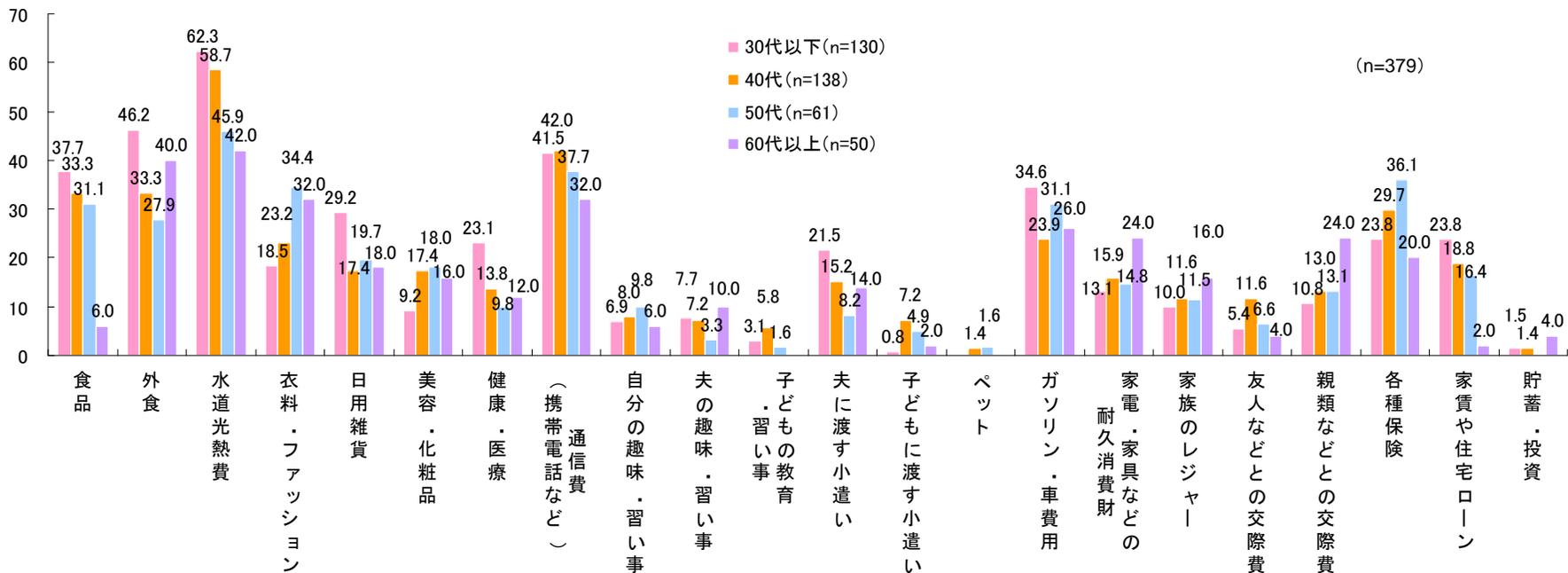
リビング暮らしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430

(数字はすべて%)

(グラフ④)家計の中で出費を減らしたい項目は何ですか？(いくつでも)





<家計の中で削れない項目>

家計の中で削れないのは 食費、医療費、教育費など

一方、これだけは削れない項目は「食品」がダントツでトップ。次いで「健康・医療」「子どもの教育・習い事」「貯蓄・投資」「家族のレジャー」「家賃や住宅ローン」が続く。

「子どもの教育・習い事」「家族のレジャー」「家賃や住宅ローン」は、当然の事ながら年代が若いほど削れないという声が多い。

60代以上は削れない項目がほかの年代よりも多く、「水道光熱費」「健康・医療」「自分の趣味・習い事」「友人などの交際費」「親類などとの交際費」などが目立つ。

特に「食品」は60代以上の8割以上が削れないとしており、ほかの年代と比べてもダントツの割合。食への価値観の高さが伺える。

<回答者プロフィール>

- 平均年齢:45歳 ●配偶者:あり 100%
- 子どもの有無:あり 77.5%、なし 22.5%

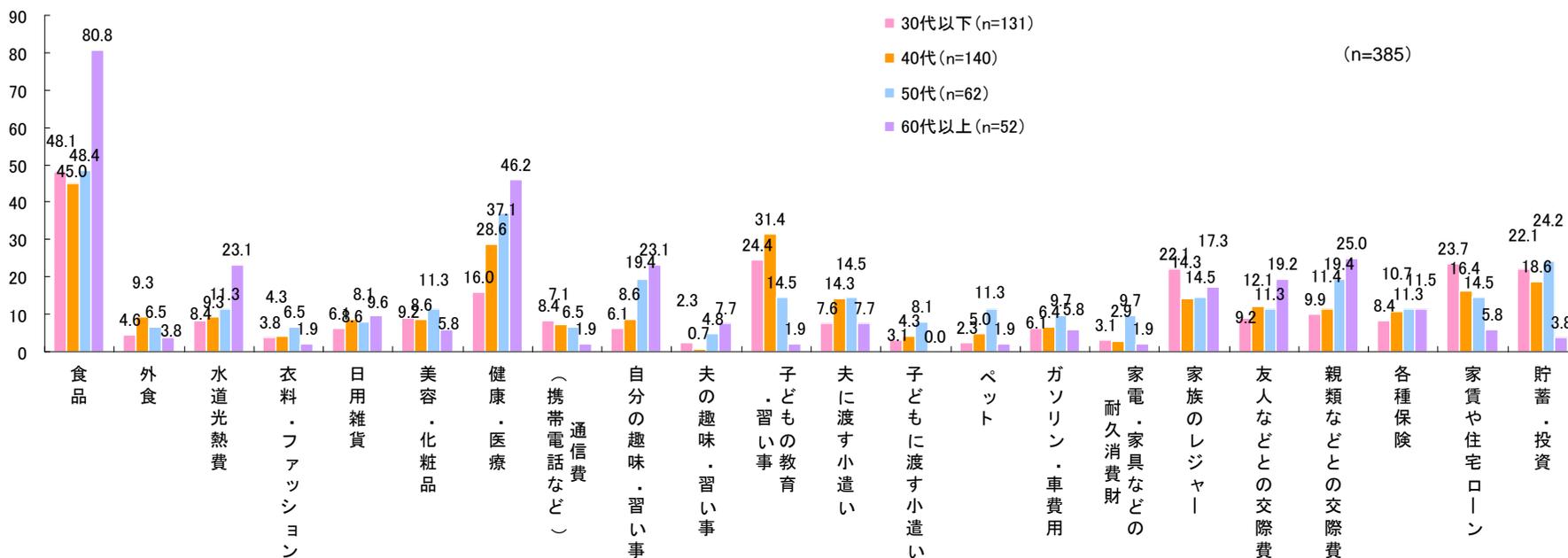
リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430

(数字はすべて%)

(グラフ⑤)家計の中でこれは削れないという項目は何ですか？(いくつでも)





<自分と夫のお小遣い>

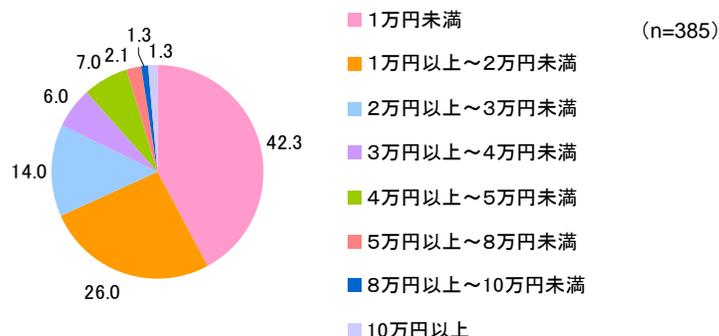
主婦のお小遣いは 8割が「1万円未満～3万円未満」

自分だけのために自由に使えるお金は1ヶ月「1万円未満」が4割強。3万円未満までで8割を超える。年代別で見ると30代以下の半数以上が「1万円未満」と回答しており、年代が高くなるにつれ金額も上がる。

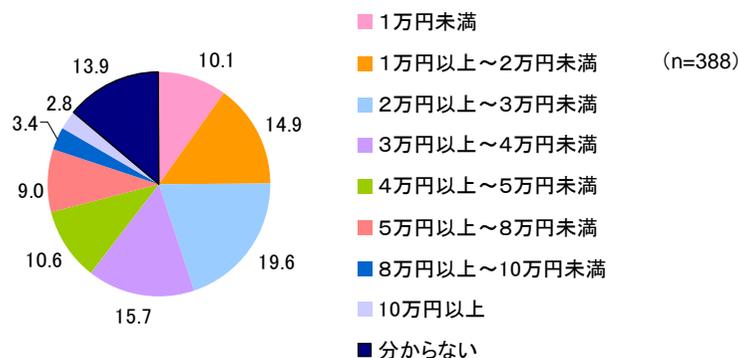
夫の小遣いは人によってバラバラで、1ヶ月「1万円未満」の人も「4万円以上～5万円未満」の人も1割と同じぐらいいる。「1万円以上～4万円未満」ぐらいが多いようだが、「わからない」という声も13.9%。

(グラフ⑥)自分だけのために自由に使えるお金は、1カ月いくらくらいですか？

(数字はすべて%)



(グラフ⑦)夫の小遣いは1カ月いくらくらいですか？



<回答者プロフィール>

- 平均年齢:45歳 ●配偶者:あり 100%
- 子どもの有無:あり 77.5%、なし 22.5%

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430



<貯蓄にまわす額と預貯金の金額>

毎月の貯蓄額は年代によってばらばら
50代の4分の1は毎月10万円以上貯金

毎月、貯蓄にまわしている額は年代によってまちまち。60代以上は「0円」という人が一番多く、していても「1万円～3万円未満」という人が多い。一方50代は来たるセカンドライフに備えてか、「10万円以上」貯蓄している人が4分の1を占めている。

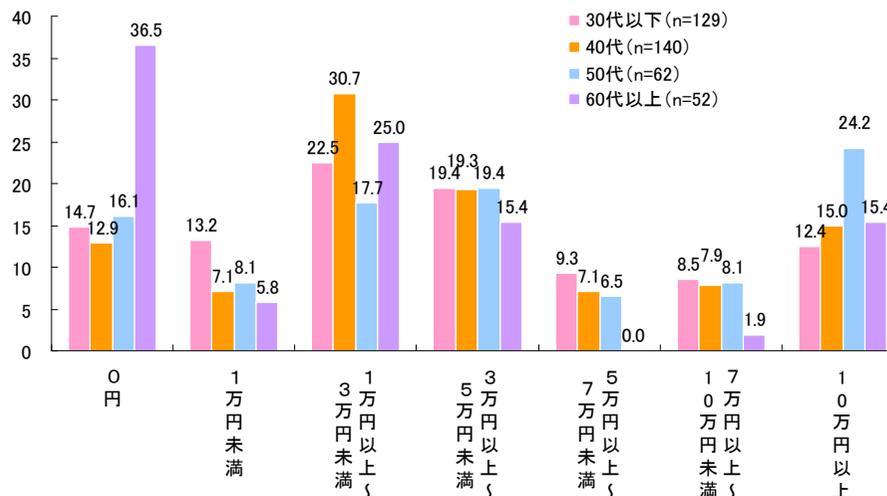
50代・60代以上の半数は
預貯金額1500万円以上

預貯金の額は、当然ながら年代が上がるごとに高くなり、50代、60代以上は「1500万円以上」が半数以上と最も多い。

40代は「300万円以上～500万円未満」「500万円以上～1000万円未満」「1500万円以上」が2割ずつおり、人によってばらける。

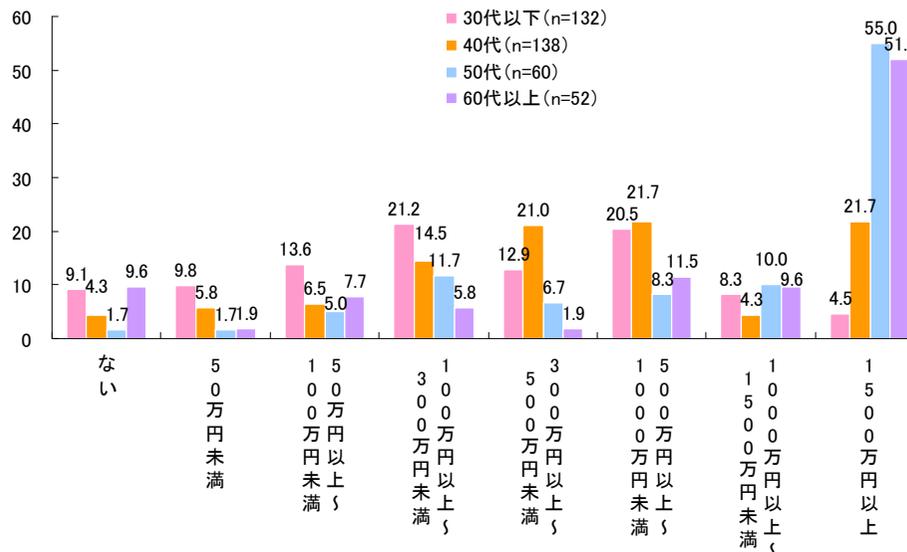
30代以下は「100万円以上～300万円未満」から「500万円以上～1000万円未満」がボリュームゾーンで半数ぐらいを占める。

(グラフ⑧) 毎月、貯蓄にいくらくらいまわしていますか？



(数字はすべて%)

(グラフ⑨) 預貯金はいくらくらいありますか？



<回答者プロフィール>

- 平均年齢: 45歳 ●配偶者: あり 100%
- 子どもの有無: あり 77.5%、なし 22.5%

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430



<利用している金融商品と貯蓄の目的>

年代が高くなるにつれ

「株式」「投資信託」「国債」の利用者が増える

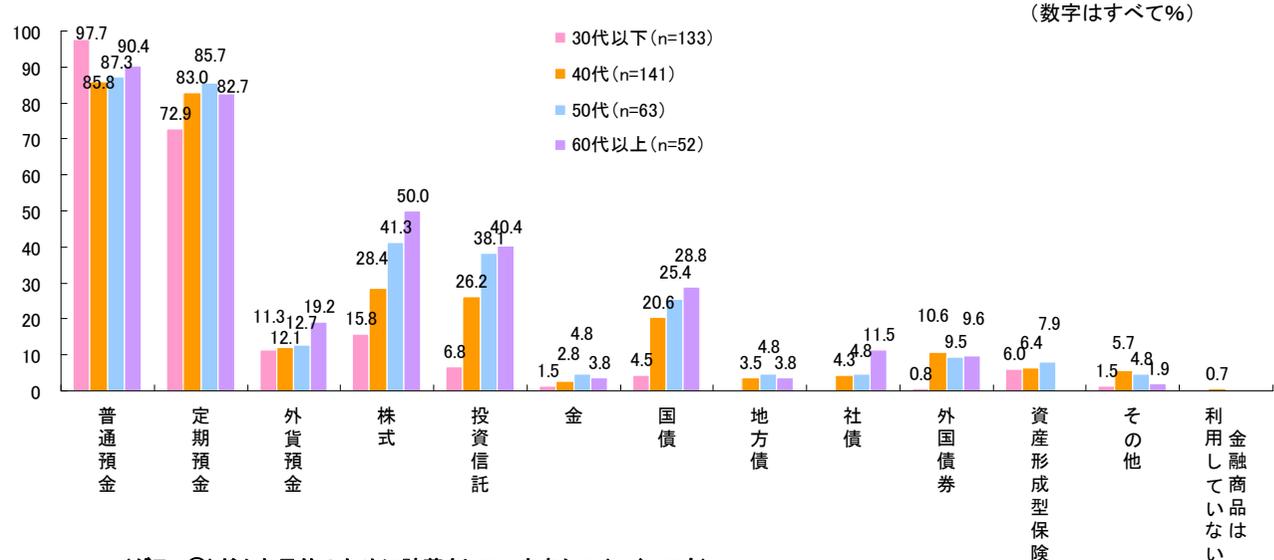
利用している金融商品は「普通預金」「定期預金」が全年代でダントツ。年代が高くなるにつれ、「株式」「投資信託」「国債」の利用者の割合が高くなっている。

貯蓄の目的は「老後の生活資金」

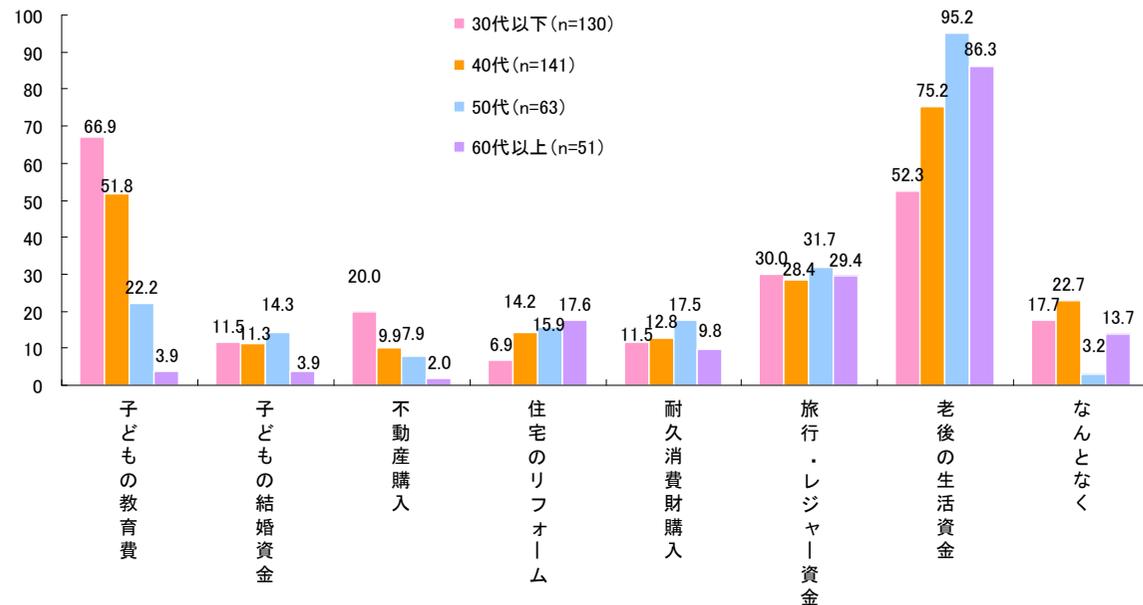
40代までは「子どもの教育費」も

貯蓄の目的は「老後の生活資金」がやはりダントツで、50代のほぼ全員がそのためにお金をためている。若い年代も老後を意識して貯蓄しているが、40代までは「子どもの教育費」という声も多数。「旅行・レジャー」のために貯蓄をする人はどの年代でも3割ぐらいいるようだ。

(グラフ⑩) 利用している金融商品は何ですか？(いくつでも)



(グラフ⑪) どんな目的のために貯蓄をしていますか？(いくつでも)



<回答者プロフィール>

- 平均年齢:45歳 ●配偶者:あり 100%
- 子どもの有無:あり 77.5%、なし 22.5%

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430



<親からの現金援助>

日ごろの家計で親からの現金援助がある人はほとんどいない

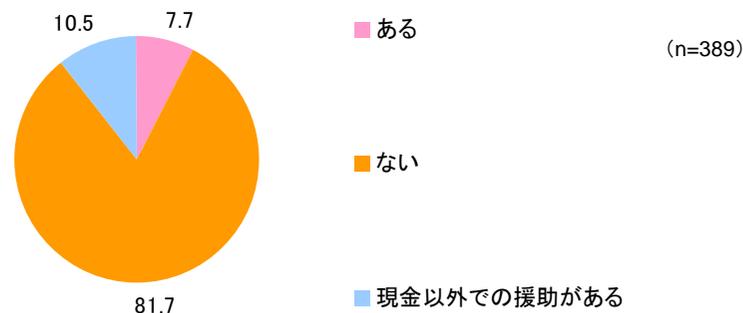
日ごろの家計で親からの現金援助はない人がほとんどだが、現金以外での援助がある人は1割、あると答えた人も1割弱いる。

現金援助がある人の金額は1ヶ月あたり「1万円未満～3万円未満」が6割

現金援助があると答えた人に1ヶ月あたりの額をたずねると、「1万円未満」「1万円以上～3万円未満」が合わせて6割と多かった。「5万円以上～7万円未満」「7万円以上～10万円未満」という人も1割強いる。

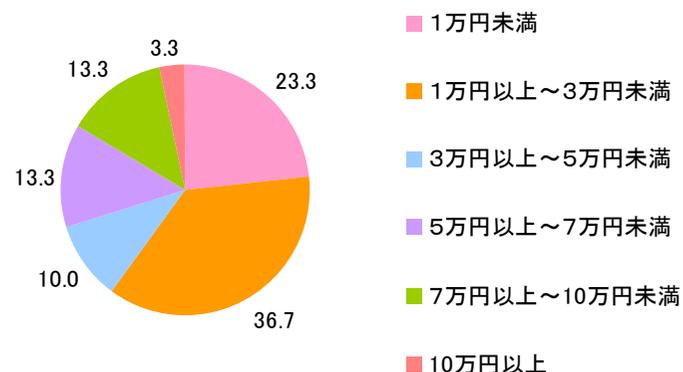
(グラフ⑫) 日ごろの家計で親からの現金援助はありますか？

(数字はすべて%)



(グラフ⑬) 「現金援助がある」と答えた方にうかがいます。1カ月あたりいくらくらいですか？

(n=30)



<回答者プロフィール>

- 平均年齢: 45歳 ● 配偶者: あり 100%
- 子どもの有無: あり 77.5%、なし 22.5%

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430